

「多層指導モデルMIM 読みのアセスメント・指導パッケージ」デジタル版を活用した読みの指導の研究

キーワード 多層指導モデルMIM, MIMデジタル版, 読みの流暢性, MIM-PMデジタル版

学校名 鹿沼市教育委員会

所在地 〒322-8601
栃木県鹿沼市今宮町1688-1

ホームページ
アドレス <https://www.city.kanuma.tochigi.jp/>

1. 研究の背景

小学1年生の通常学級での入門期の読み書き指導は、非常に重要であると考えられる。1年生の段階で語を解読できれば、適切な語彙の発達を促し、後の学年に向け、読みの流暢性や、より複雑な読解も可能となると考えられる。

その一方で、ひらがなの読み書きの習得の遅れや、特殊音節のルール理解に関するつまずきは、その後の読み書きの困難に繋がる可能性がある。また、1年生の終わりまでに、読みの基本的なスキルが十分に習得できない場合、すべての学習活動で、ネガティブに作用するだけでなく、学年・学級を超えた仲間との活動においても影響を及ぼす可能性も否定できない。

また、全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、本市では小学校国語において、特に、「文が句点によって区切られることの意味」等について課題がみられる。つまり、学力向上の観点からも小学校低学年から読みについての効果的な指導の必要性が出てきた。

更に、本市においては、社会情勢の変化や教育環境の変化、関連法改正等に伴い、長期的な視点に立ち新たな時代に対応していくための教育の展望と方向性を定めていくことを目的とし、新たな教育の指針として「鹿沼市教育ビジョン」(2012～2021)を策定した。その基本施策の1つにおいて「学力の充実と向上」が掲げられており、行政主導による推進が期待されている。

2. 研究の目的

学習面のつまずきに対する体系的でかつ科学的根拠のある多層指導モデル MIM を活用した特殊音節の指導を通して、読みの効果的な早期指導・支援に取り組む。

研究を推進していくに当たり、MIM デジタル版の活用を考えている。本市では、平成26年度から MIM 指導パッケージを使い指導実践を積んできた。また、タブレット端末を130台保有しておりそれらを活用し、今回の研究では、多層指導モデル MIM デジタル版を活用した特殊音節の指導を通して、小学校低学年児童の読みの流暢性を高める。また、多層指導モデル MIM デジタル版を活用した指導法とともに、その有効性を明らかにしようと考えている。

3. 研究の経過

①時期	②取組内容	③評価のための記録
4月13日	◆第1回運営委員会(研究組織員で構成)の開催 ・研究目的, 内容, 方法, 評価等の検討・確認	
4月26日	◆第1回MIM研修会の開催 ・多層指導モデルMIMについて ・MIMによる指導の意義 ・1stステージ指導とその意義 ・MIMデジタル版を活用した1stステージ指導の実際	アンケート調査(参加者)
4月～5月	◆第1学年保護者への啓発(学年保護者会等) ・資料「流暢な読みから確かな学力へ」	
5月～7月	◆授業実践「1stステージ指導」(各研究モデル校) ・特殊音節(促音・長音・拗音・拗長音)のルールの明確化とルールの理解・定着・発展を目的とする。 ・全ての子供を対象に指導パッケージを活用し, 通常の学級の国語の授業の中で, 効果的な授業を展開する。	MIM-PMにおけるクラスレポートの結果写真
5月～7月	◆MIM-PMテストの実施(毎月) ・アセスメント結果をもとに, 子供の伸びやつまづきを早期に具体的に把握し, 個別指導に生かす。	MIM-PMにおけるクラスレポートの結果
6月30日	◆MIMデジタル版活用研修会 ・MIMデジタル版の操作法及び活用の仕方について	写真
8月4日	◆第2回MIM研修会の開催 ・2nd・3rdステージ指導とその意義 ・MIMデジタル版を活用した2nd・3rdステージ指導について	アンケート調査(参加者)
9月～3月	◆授業実践「2nd・3rdステージ指導」(各研究モデル校) ・ルールの理解・定着を目的とする。1stステージ指導のみでは伸びが乏しい子供, 1st・2ndステージ指導では伸びが乏しい子供を対象とし, 通常の学級内での補足的な指導や, 補足的・集中的・柔軟な形態による特化した指導を, MIMデジタル版を活用し実践する。 ・MIMデジタル版を活用し, 朝の学習や特設の時間の中で, 個に応じた指導を展開する。	MIM-PMにおけるクラスレポート MIMデジタル版におけるトレーニングの結果
9月～3月	◆MIM-PMテストの実施(毎月) ・アセスメント結果をもとに, 子供の伸びやつまづきを早期に具体的に把握し, 個別指導に生かす。	MIM-PMにおける個別の配慮計画の結果

10月25日	◆研究モデル校指導訪問 ・MIM デジタル版を活用した指導の参観	写真
10月28日	◆第2回公開授業研究会の開催 ・【授業公開】MIM デジタル版を活用した「2nd・3rd ステージ指導」 ・【協議】MIM 実施上の課題について	アンケート調査(参 加者)
11月2日	◆研究モデル校指導訪問 ・MIM デジタル版を活用した指導の参観	写真
2月24日	◆平成28年度第3回飯塚市立小学校MIM指導者研修会 参加 ・【実践発表】教頭, 主幹教諭, 教諭の立場から ・【実践報告】 「MIM から出発した発達障がいの可能性のある児 童に対する巡回相談支援システム」について ・【講評】「飯塚市でのMIM からみえる成果と課題」	出張復命書
3月6日	◆第2回運営委員会の開催 ・研究の成果と課題の確認	研究成果報告書 実施報告書

4. 代表的な実践

ここでは、研究モデル校における代表的なMIMの実践を紹介する。

(1) 目的

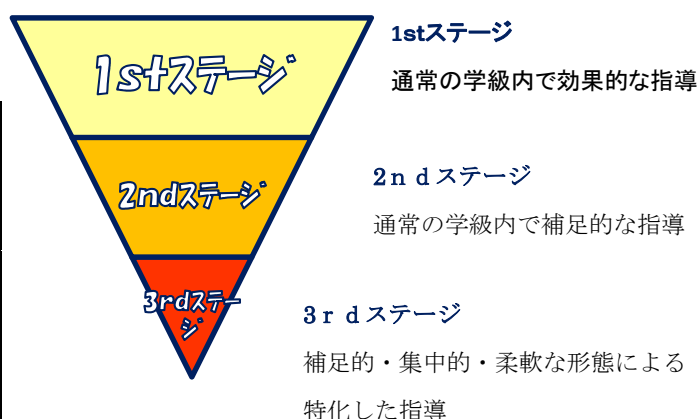
- ・MIMの効果的な活用を図り、1, 2年生の「読み」の指導の充実を図る。
- ・小学2年生までの、「読み」の能力育成の重要性に基づき、個人差に応じた「読み」の指導の充実を図る。

(2) 対象

第1, 2学年児童

(3) 実施時期及び時数, 指導者

学年	第1学年	第2学年
実施時期	1年間	1学期, 2学期
時数	週2時間	週1時間
指導者	1stステージ: 教務主任 2ndステージ: 学級担任 3rdステージ: 通級指導教室担当 特別支援学級在籍児童: 学級担任	



(4) グループ編成

MIM-PMの結果や教師の観察により、指導者が話し合い、各児童の「読み」の能力差に応じたグループ編成を行う。

(5) 指導の実際

ア 多層指導モデル MIM 指導パッケージを用いた指導

(7) ルールの明確化（視覚化や動作化を通じた音節構造の理解）

- ・視覚化：音のイメージを、視覚的により簡略化して捉えられるよう、ドットで音の特徴を表す。
- ・動作化：目に見えない音の特徴を具現化する。特殊音節の表記に迷ったときに、子供自身が自分の身体をつかってルールの確認ができるようにする。

○MIM 教材：

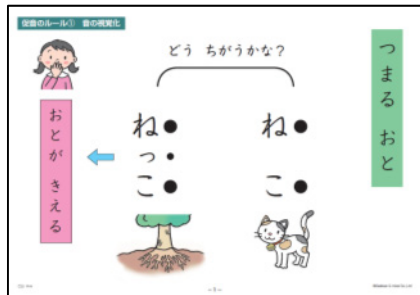


図1 ルール説明用カード

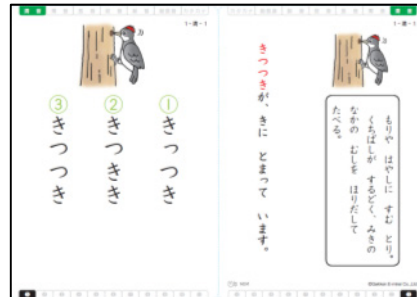


図2 ことば絵カード

(イ) かたまりとして語を捉えることによる読みの速度の向上

視覚性語彙（一目見ただけで、その語をなんと読むのか、何を意味しているのか即座に認識できること）を増やすことによって、読みのスピードを増し、読むことへの疲労感の軽減を図る。

○MIM 教材：ことば絵カード、ちょっとプリント、3つのことばさがし等

(ウ) 日常的に用いる語の拡大使用

語彙を増やし、自由に操る力を養うことで、語や文を読んで何を意味しているかが分かり、イメージを豊かに描くことができるようにする。

○MIM 教材：はやくちことばしゅう、ことばあつめ、もしもさくぶん等

イ MIM デジタル版を用いた指導

指導パッケージを用いた指導を実施するにしたいが、「読みにつまずきのある 2nd ステージや 3rd ステージ指導を要する子供への指導をいかに実施していくか」という課題があがってきた。その背景には、誰が、いつ、どこで、どのように指導にあたるかという指導環境の問題がある。

そこで、MIM デジタル版を活用することで、そうした難しい課題を解決する一手と考えた。先生が直接的に子供の指導する部分(MIM 指導パッケージを用いた指導)と子供がタブレット端末等を活用し、自分自身で学ぶことができる部分とをあわせることで、2nd ステージや 3rd ステージ指導がより実施しやすくなると考えている。

(7) 「個別の配慮計画」による個々の課題の読み取り

MIM-PM によるテストは、テスト①(3つの選択肢の中から絵に合う語に○をつける課題)と、テスト②(3つの語が縦に続けて書いてあるものを読んで、語と語の間を線で区切る課題)の2部で構成されている。個別の配慮計画は、テスト①とテスト②のそれぞれで、個々の子供のつまずきがどこにあるのかを知ることができる。まずは、テスト①の結果を見て、次にテスト②を見て個々の課題をつかみ、それを指導の根拠としていくことが重要である。

(イ)MIM デジタル版によるトレーニング(以下「図3 個別の配慮計画」をもとに記述)

テスト①							テスト②						
清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ	清音	濁音・半濁音	長音	促音	拗音	拗長音	カタカナ
		■	■	■	■					■	■	■	■

図3 個別の配慮計画

①傾向

■(つまずきを示す印)がテスト①, テスト②の両方にみられる。

②推定されるつまずきの要因

- ・特殊音節表記のルールが理解できていない
- ・語をまとまりで捉えられていない
- ・語彙が少ない
- ・読むのが遅い

③対応

- ・■のついている「特殊音節トレーニング」を行う。
- ・テスト②に対応した「かたまり読み・語彙拡大トレーニング」を行う。



図4 MIMデジタル版メニュー画面

④実施レベル

実施レベルには、「らくらく」、「どきどき」コースがあり、まずは「らくらく」コースからはじめる。

5. 研究の成果

本研究の目的は、多層指導モデルMIM デジタル版を活用した特殊音節の指導を通して、小学校低学年児童の読みの流暢性を高めること、また、MIM デジタル版を活用した指導法とともに、その有効性を明らかにすることである。

まず、小学校低学年児童の読みの流暢性を高めることについては、MIM-PM により、図5、図6のような結果が得られた。

MIM 指導パッケージ及びMIM デジタル版を活用しての指導により、1st ステージ対象児童*数が学級の児童数の約75%に達した。

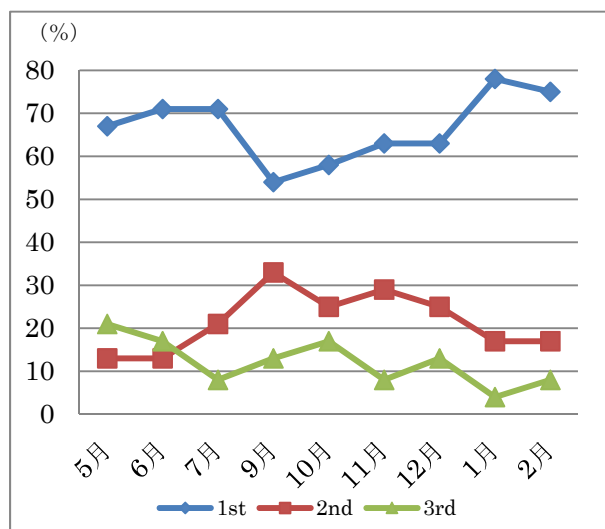


図5 MIM-PMの結果(A学級)

1st ステージ対象児童*：
1st ステージ指導でその月の基準をクリアした児童

また、指導を積むにつれ、テスト①・テスト②・総合点の学級平均得点が上昇し、特に2月においては、事前に示されている同時期平均の最高得点と同程度の得点となった。

以上のことから、これらの指導により、児童の読みの流暢性を高めることができたと考えている。

MIM デジタル版を活用した指導法とともに、その有効性については、まず、ただ単に「この MIM デジタル版を子供に渡せば読みの力が向上する」と考えることは誤りであり、自明のことである。大切なことは、「個別の配慮計画」等によるアセスメントをしっかりと行い、児童一人一人の課題や指導方針を明確にすることである。

加えて、学級担任が一人に対応するのではなく、校内指導体制を構築し、チームで対応して実施することで、この指導の有効性が高まっていくと考えている。

6. 今後の課題・展望

以上のような研究実践により、児童の読みの流暢性を高めるといった目的を達成することはできたが、課題も明らかになった。

1 つめは、MIM デジタル版等を用いて学習を行っても、ある一定の割合で、3rd ステージ対象児童が存在するということである。この課題への対応策としては、他のスクリーニング検査の実施により、児童の認知特性を把握し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導を構想し実施していくことが大切であると考えている。また、外部機関との連携の必要性も感じている。つまりきやりにくさに応じ、どの機関との連携が適切であるか判断することも含め、外部機関との連携体制の構築が喫緊の課題であると感じている。

2 つめは、MIM のアセスメントである MIM-PM のデジタル化と、アセスメント結果をサーバーで履歴管理できるようなシステムの開発がすすんでいると聞いている。このソフト及びシステムの活用により、子供一人一人の学びの様子を瞬時に把握でき、支援を必要としている場合にはすぐにも対応できる、質の高い指導の提供が可能になると考えている。

7. おわりに

「小学校低学年における学力差はその後の学力差に大きく影響すると言われる中で、語彙の量と質の違いが学力差に大きく影響している」と、平成 28 年 12 月 21 日にだされた中央教育審議会答申の中で指摘されている。このようなことから、言語能力の育成は、小学校低学年から行っていくことが肝要であり、本市においても、しっかり推進していこうと考えている。

8. 参考文献 海津亜希子、杉本陽子(2016)『多層指導モデル MIM アセスメントと連動した効果的な「読み」の指導』学研

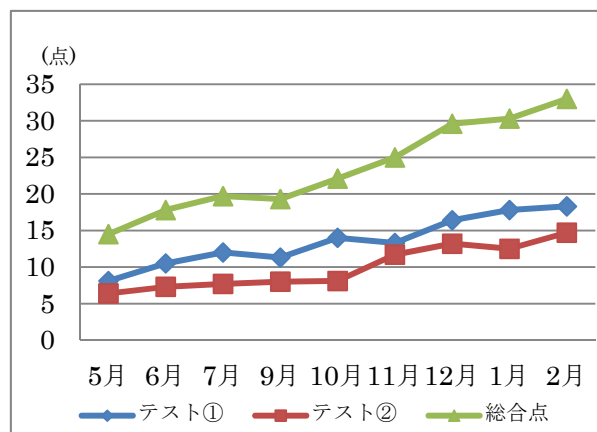


図6 MIM-PMの結果(A学級)